

2023年7月30日(日) 京都復興教会 礼拝説教

■聖書 マタイ 3:13-17

13 そのとき、イエスが、ガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである。

14 ところが、ヨハネは、それを思いとどませようとして言った。「わたしこそ、あなたから洗礼を受けべきなのに、あなたが、わたしのところへ来られたのですか。」

15 しかし、イエスはお答えになった。「今は、止めないでほしい。正しいことをすべて行うのは、我々にふさわしいことです。」そこで、ヨハネはイエスの言われるとおりにした。

16 イエスは洗礼を受けると、すぐ水の中から上がった。そのとき、天がイエスに向かって開いた。イエスは、神の霊が鳩のように御自分の上に降って来るのを御覧になった。

17 そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

■説教 愛されている自信

皆さん、おはようございます。
宮崎清水町教会の山口英希です。久しぶりに京都復興教会の皆様と、このすばらしい会堂で礼拝を共に献げることができますことを感謝します。

皆さん、苦しんでいる方はおられますか？私は40歳記念に親不知を4本、2回に分けて抜きました。2回とも、痛み止めを一週間手放せないほど苦しみました。知っています。だから抜かないほうが良いという方がいることを。抜こうと決意した理由は、歯磨きが届かず虫歯になる可能性がありますよ、親不知が虫歯になったら隣りもボロボロになっていきますよ、という脅しのような歯科衛生士の言葉ではなく、「先生ならまだ若いから大丈夫！」という教会員の歯科技工士の励ましの言葉でした。同じようなことを言っていますが、大丈夫っていわれたほうがいいですよ。

一難去って、また一難。今もう一つ苦しんでいることがあります。ストレートネックの痛みが4月に首から背中、右手のしびれにまで出て、ずっと我慢していたのです。親不知の治療が終わってから…と、ようやく2週間前にかかりつけの整骨院に行きました。「こ

れはひどい。痛いでしょう。でも大丈夫。僕はこの治療に自信を持っていますから、治しましょう」。プラスの言葉は、痛い状況でも希望を生みますよね。

今日、苦しみを抱えている方の心に届く言葉。「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」。30歳になられ、いよいよ順境も逆境も伴う神の国宣教へと出かけていくイエス様への、天のお父様からの励まし、存在肯定の語りかけです。この御言葉は預言者イザヤ「主の僕の歌」の始め、イザヤ42:1aの引用と考えられています。

1 見よ、わたしの僕、わたしが支える者を。わたしが選び、喜び迎える者を。(イザヤ42:1a)

主の僕の歌のクライマックス部分も引用します。

12 それゆえ、わたしは多くの人を彼の取り分とし／彼は戦利品としておびたしい人を受ける。彼が自らをなげうち、死んで／罪人のひとりに教えられたからだ。多くの人を過ちを担い／背いた者のために執り成しをしたのは／この人であった。(イザヤ53:12)

主の僕到来の預言は、イエス様ご降誕に成就しました。救い主の人生は、高い地位に昇り詰める歩みではなく、貧しい飼葉桶に生まれ、さらに低いところへ、果ては十字架の死に向かう歩みでした。今日お読みした洗礼の記事も、そのことを意味します。

罪なき神の子が悔い改めの洗礼を受けられた理由は、私たちと同じ「罪人のひとりに教えられ」(イザヤ53:12) するため、私たちの罪を引き受けることを厭わずに十字架へと向かうためでした。

洗礼を受けた場所は、死海に近い場所だったと考えられています。死海は世界で最も低い湖で有名ですから、イエス様が洗礼を受けた場所は世界で最も低い川だったといえます。その川床に沈められたイエス様は、最も低い私たちのところまで降りてきて下さいました。そして向かう果ては最も低いところ、罪人の極刑である十字架でした。

この救い主は、私たちの苦しみに共感できるお方であり、私たちの心の闇を貫く希望を与えることができるお方です。

17 それで、イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。

18 事実、御自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練を受けている人たちを助けることがおできになるのです。(ヘブライ2:17-18)

イエス様が主の僕、苦難の僕としての道を踏み出すことができたのは、今日の聖書の並行記事ルカを見れば分かります。絶えず天の父なる神様に「祈っておられ」(ルカ3:21) たからでしょう。自分の決断、進むべき道が正しいかどうかと父に祈るたび、「これはわたしの愛する子(直訳…わたしはあなたを喜ぶ)」との存在肯定を握りしめたに違いないのです。ルカは、洗礼の後にイエスの系図、イエスからさかのぼって神に至る系図を置くことで、イエス様は確かに私たちを救うことができる罪なき神の子、神に喜ばれる子であると伝えています。

私たちは自分のことで苦しむならまだ受け入れられますが、教会の奉仕で疲れ、苦しむという時、解決しづらい課題となります。だから私たちは奉仕者である前に、神の子であるというアイデンティティーを握りたいのです。私たちはただで、信仰によって救われた神の子です。なのに、疲れを覚えると御言葉が届かなくなる、聖書を開くこともしんどくなる、…ご経験はないでしょうか。

イエス様はその苦しみにも共感し、助けることがおできになるお方です。十字架の時、まさに存在肯定の語りかけが聞こえなくなり、一人で戦われました。そして息を引き取られた時、神殿の垂れ幕が真っ二つに裂けましたね。今日の箇所、天が開いた(裂けた)のと同じことが再び起こったのです。つまり、神の子に語られた存在肯定の言葉は今や、信じる者すべて、私たちへの励ましの言葉、宣言となったのです。

大切な決断を祈られている方、どうぞ誰よりも自分が天のお父様に愛されている自信を持ちましょう。奉仕疲れにある方、あなたは何者であるかよりも前に立派な神の子なので大丈夫です。祈りましょう。